

# 保育実践演習

## なぜ、保育で「科学する心」を育てる必要があるのか？

### ポスター発表会開催 2017.1.27(Fri)



### なぜ、保育で科学の心を育てる必要があるのか？

#### 1. はじめに

なぜ科学する心を保育において育てなければならないのか、この問いに答えることを通して、その必要性、重要性について考える。調査したことをもとに、ここでは、科学する心とは、子どもの好奇心・探究心をもとに生まれる、創造性や学びの喜びのこととする。これまでの実践例から保育においても科学する心を育てる必要があることが分かる。

#### 2. 材料と方法

ここでは、実習先で体験した事例(事例1)と、資料での事例(事例2)を照らし合わせる。

#### 事例1 とんぐり迷路を作るう(3歳児)

実習中、空き箱でとんぐり迷路を作った。遊んでいるときの、ある幼児の「大きい虫を作ろうというつぶやきにより、みんなで大きなとんぐり迷路を作るようになった。」



#### 事例2 音をつくって遊ぼう(5歳児)

子どもたちがお店ごっこをして遊ぶ中で、楽器を作っている姿が見られた。トレイに紙コップをかけた楽器をお店ごっこで商品にしていた。楽器を作っては、保育者や友達に聞いてもらうことを楽しむ姿が何日もかけて見られるようになった。幼児の姿を受けて、保育者は、遊びが広がるように、様々な素材やビニールテープなどを身近な場所に用意した。



#### 3-1. 結果①

・材料を生かして遊びを工夫する。  
→幼児は、大きな段ボールを土台として、空き箱やラップの芯を土台に張り付けて、とんぐりの通り道を作った。滑り台などでものを転がした経験などをもち、土台をテーブルに立てかけて板を作り、とんぐりを転がそうとしていた。  
・年中長児などが一緒に参加することになる。  
→3歳児では思い浮かばないような工夫やアドバイスなどをして、簡単なとんぐりをゴールまで通ることができた。



#### 3-2. 結果②

・音をよく聞き取り、聞こえてくる音を自分なりの言葉で表現したり、弾き方を工夫したりする。  
→振り子に、いろいろなフープを振り回す様子を「ジュウニ ジュウニ ジュウニって高いよみたい」と表現する。  
→割りばしやとんぐり・ス・ローなどを三味線のかちのように弾く。  
・音の違いに気が付き、比べる。  
→トレイは輪ゴムを挟める際に、トレイの方に折り込みを入れ、曲差しながら「先生、これは不思議なんよ、いっぱい切って、半分切って、切らんのじゃったら、音が通らんよ、いっぱい切ったらどりどりで音がして、半分切ったのはかうかうって音がして、全然切っていないのは、ボクボクって音がするんよ」と言う。

#### 4-1. 考察①

幼児はとんぐり迷路によって抱いたとんぐりや遊びへの好奇心と、滑り台などでものを転がした経験などをもち、自分たちで遊びを創造したのではないかと考えた。異年齢の幼児によるアドバイスによって、さらに遊びに面白みを持たせることができた。

#### 4-2. 考察②

子供の自ら楽器を作りたいという好奇心・探究心から、試行錯誤して新しい楽器を作り出している。その過程で、音をよく聞き、音の違いに満足感を得たり、弾き方を工夫して新しい音に出会ったりしているのではないかと考える。

#### 5. 結論



科学する心(好奇心や探究心)を育てることで、これから出会う課題に対して解決する力が身につく。より多くの経験をすることができる。  
科学する心を育てることは豊かな人生を送るために重要なことである。

#### 科学する心

今回のキーワードは、科学する心。

科学する心とは何か？そして、その科学する心というものを保育で育てる必要があるのか？

これまでの様々な保育実践例をもとに、自分の頭で考え、そして仲間と議論し、この問いに対して答えること、これがこの授業の課題です。



発表形式は、ポスター発表と個人レポート。

ポスター発表では、考えの異なる個人が集まって議論し、考えを深めて、ポスターとしてまとめ、発表し、議論することが求められました。

また、個人レポートでは、ポスター発表で伝えきれなかった個人の考えも含めてまとめることが求められました。



#### 明快な論理

自分の考えを伝えるためには、なぜそのように考えるのか、話の筋道を明らかにしなければなりません。



#### 明快な根拠

自分の考えがどのような事実に基づいているのか、根拠を示す必要もあります。

